



MORAMORA

マダガスカル通信 第2号 2022年8月15日

小さな町の大きな家族

Manao ahoana! 僕がマダガスカルに来てからすでに11か月が経ったのですが、今号では派遣直後のことを記録がてら書いておこうと思います。

2021年9月にマダガスカルへ派遣され、約1か月間、首都・アンタナナリボのホテルに滞在しながらマダガスカル語のレッスンを受けた後、任地であるアンズズルベという地域にやってきました。アンズズルベはごぞんまりとした町で、住人みんなが一つの大きな家族のようです。道を歩いていると、「タロー!」「タロー!」というろんな所から声をかけられます。僕は見た目が違うし、言葉のやりとりも十分にできないけど、みんなに温かく見守られているような感じがして、安心して暮らしています。

アンズズルベに来てから3か月間はまったく水が出ず、しばしば電気が止まることもありました。ふだん能天気な僕ですが、断水と停電のダブル攻撃に「生きていけるのかな…」と焦りました。かたや近所の人たちは、口笛を吹きながら平然と暮らしています。物で満たされている日本人からすると、水も電気もない生活は不幸に思えるかもしれませんが、しかし、人々に悲壮感はなく、みんな笑顔で幸せそうです。今は水道と電気が復旧して快適な生活を送っていますが、任地に来て以来、幸せとは何なのかをずっと考えています。

個人的なアンズズルベのおすすめスポットは、町のど真ん中に構える大きな市場です。アンズズルベにスーパーはありませんが、市場を探せばたいいの物は手に入ります。お店の人と他愛のない世間話をするのも僕にとって幸せな時間です。それではここで、MORAMORA を読んでくれている皆様にクエスチョンです。先日、市場を散策していると、ココナッツの殻が山積みになって売られていました。使い道を店員さんに尋ねたところ、「○○○に使うんだよ」とのこと。僕には意外な答えだったので、訝しみつつ一つ買い、教わった通りに使ってみるとたしかに便利でした。さて、マダガスカルでは一般的なココナッツの殻の用途とは一体、何でしょう? 答えは次号で～。



長谷川 太郎

出身：大阪府 職業：小学校教諭

協力隊に参加した理由：帰国後、日本の子どもたちに世界のことを伝えるため。

隊次：2021年度1次隊 職種：小学校教育 任地：アンズズルベ

活動内容：5～6校の小学校を巡回し、各校の先生といっしょに算数、理科、体育などの授業を行う。

